

【巻頭言】

21世紀型福音宣教

それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」(マルコの福音書 16章 15節)

代表：エルサレム杉澤

皆さまの尊いお祈りとご献金を有難うございます。カンボジアチームが8月 21日～24日の短期日程で現地スタッフ1名を含めた総勢15名で派遣されました。礎の石孤児院カンボジアはひな型として用いられると主から語られている中でチームは遣わされました。

「礎の石孤児院カンボジア」は、国際NGOの孤児院としてひとり一人の将来に向けて自立支援を行なっています。孤児院の子どもたちは主の十字架クリスチャンセンター東京アンテオケ教会のインターネット礼拝会員となつて、礼拝会員として母教会のカバリングを受けるなか、着実に信仰の変化や成長と共に霊的、实际的にも逞ましくなっています。

夜の聖会では、孤児院の卒園生の洗礼式が行われました。子どもたちが日本語のオリジナルゴスペル曲を上手に日本語で賛美したり、チームのメンバーにキーボードやギターを習っている子ども達が特別賛美の伴奏に加わるなど、教会のカバリングを受けている恵みと祝福が現されており、特に生き生きとした笑顔や成長著しい姿が非常に印象的でした。午前中はチームメンバーと子どもたちはプールにでかけ大はしゃぎし、昼は大型ショッピングモールでボーリングやバーベキューなど、思い出に残る楽しいひと時となりました。

また、今回は初めてカンボジア孤児院でチームのメンバーによる映像セミナーが行われ、孤児院のひな型となると語られた通りに、映像の働きの信仰の踏み出しがなされました。

インターネットの世界的な著しい普及に伴い、宣教の働きが明らかに大きく変革する時代の中にいます。海外宣教の基本は、実際にあらゆる国々に行くことにあります。しかし、インターネットで信仰のみならず実際の成長を教会のカバリングで行うことが可能な時代になりました。徹底して主に祈り聞き従い、インターネットを神の武器として用いて、大宣教命令、終末、後の雨のリバイバルの働きの全うに向けて邁進し、歩む必要があります。